



グランドラウンジと一体感のあるデッキテラス。デッキからは「日本花火大会百選」にも選ばれた、宮島水中花火大会の鑑賞もできる

国内に六つのスキー場や三つのリゾートホテルなどを展開する、(株)鈴木商会（本社＝東京都千代田区、鈴木一正代表取締役社長）は、「安芸グランドホテル」（広島県廿日市市）の施設リノベーションが完了。2019年3月1日にリニューアルオープンした。取材・本誌 森下智美

安芸グランドホテルは、この度リノベーションが完了した3階ラウンジ「シーガル」、4階宴会場「珊瑚の間・瀬戸の間」などの内覧会および、再生20周年記念「感謝の宴」を3月5日に開催した。なお、投資額は約1億円。

1987年に開業した「安芸グランドホテル」を前経営者から運営譲渡し、2000年より、鈴木商会が運営している。これまでも、客室（194室）や四つの大浴場の温泉化などのリノベーションを実施。17年には全客室のベッドをシモンズに変更したほか、18年には「和洋室」（32室）のリノベーションも強化した。

ラウンジ「シーガル」に面したデッキテラスから臨む対岸には、世界遺産でもある厳島神社や安芸の宮島が眼前という絶好のロケーションで、夜にはライトアップされた神社の鳥居をあおぐ「ナイトクルージング」も行なっている。

「感謝の宴」には、廿日市市の副市長の堀野和則氏や廿日市市商工会議所の会頭の細川匡氏らが列席し、それぞれ「安芸のポテンシャルを伸ばす存在として」の期待を込めた祝辞を述べた。また鈴木一正代表取締役社長は、20年前に広島を訪れたころを振り返りながら「ハードのリノベーションだけでなく、オペレーション

の改革を続けながらここまで来た。昨年は、豪雨による水害で約9カ月間落ち込んだが、ようやく持ち直してきた。近年はインバウンドも増えており、中でも廿日市市がモン・サン・ミッシェル観光友好都市ということもあってフランス人が一番多い。グループスローガンでもある“Quick Response with a Smile”で常にサービスオリティを意識しながら、世界の安芸グランドホテル目指して100点を取る努力を続けていく。また、地域に雇用をうみながら利益を上げていくことができる宿泊事業で、地域の活性にさらに寄与したい」とまとめた。



あいさつをする鈴木一正代表取締役社長。「感謝の宴」には約 200 人が参列した



パナマビューの 3 階ラウンジ「シーガル」(全 71 席)。9:00 ~ 22:30 (L.O.22:00/18:00 ~ はバーメニュー) まで、さまざまなシーンの Food & Beverage を提供



計 32 室となる「和洋室」。インバウンドにも人気のタイプ



4 階宴会場「珊瑚の間」(451.5㎡・正餐 230 名、立食 350 名、スクール 270 名)。また大宴会場「瀬戸の間」は、厳島付近最大規模のパーティー会場として利用されている



貸し切り露天風呂「望巖の湯」。日中は「シーガル」のランチとセットで日帰り利用も多い



[DATA]

**安芸グランドホテル**

<https://www.akigh.co.jp/>

住所 = 〒739-0412 広島県廿日市市宮島口西 1-1-17 / 電話番号 = 0829-56-0111 / 客室 = 全 194 室 / 付帯施設 = 大浴場、貸し切り露天風呂、飲食施設 5、売店ほか、駐車場 = 150 台 (無料)